

○再整備・再配置の方向性

藤沢第一地区

(1) 地域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
地区センター	既存施設（公民館）の活用を前提とする。 ※地区センターに移行しない施設は地区での意見交換を踏まえて活用方法を検討する。	1 藤沢公民館を活用する案	【メリット】 ・既に支所機能があり、他の部屋の機能を見直すことにより、既存施設の活用が見込める。 ・地区の支所としての認知度が高い。 【デメリット】 ・複合化による施設拡大や駐車場確保に向けた敷地拡張の余地がないため、駐車場を離れた場所に設置する必要がある。
		2 藤の台公民館を活用する案	【メリット】 ・藤沢第二地区の地区センターとの配置バランスが良い。 【課題等】 ・複合化による施設拡大や駐車場確保に向けた敷地拡張の余地がないため、駐車場を離れた場所に設置する必要がある。
		3 地区内の公共施設跡地等に移転する案	【メリット】 ・施設設置後、移転ができるため業務の休止期間が生じない。 【デメリット】 ・施設建設までに期間を要す。
小学校	市街化が進んでいる地域であり、今後新たな学校用地となり得る広い土地はないため、既存施設を活用することを前提とする。	1 藤沢小学校を活用する案	【メリット】 ・地区の中心部に近く、配置バランスが良い。 【デメリット】 ・当面は児童数の減少は見込めず、統廃合の時期については、児童数の推移を見て、実施する必要がある。
		2 藤沢北小学校を活用する案	【メリット】 ・小中一貫教育を行う上では、中学校に近く、実施しやすい環境にある。 【デメリット】 ・豊岡第二地区に存在するため、地区外の施設となっている。 ・当面は児童数の減少は見込めず、統廃合の時期については、児童数の推移を見て、実施する必要がある。

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
学童保育室	小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図るとともに、小学校に合わせて統合する。	1 藤沢と藤沢北学童保育室を統合して小学校に複合化する案	【メリット】 ・統合することにより、施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・待機児童が生じないようにするためには、施設規模の拡大が必要になる可能性がある。
中学校	市街化が進んでいる地域であり、今後新たな学校用地となり得る広い土地はないため、既存施設を活用することを前提とする。	1 藤沢中学校を活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・特に問題はない。
保育所	施設が比較的新しく、地区の人口減少が少ないため、当面は既存施設を活用することを前提とする。	1 藤沢第二保育所を活用する案	【メリット】 ・既存施設が有効活用できる。 【デメリット】 ・将来的には藤沢保育所との統合を検討する必要がある。
地区体育館	既存施設の活用を前提とする。	1 藤沢地区体育館を活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・特に問題はない。
老人憩いの家	施設更新は行わず、地域の自治会等への譲渡を検討し、施設機能は、他の地域対応施設に移転する。ただし、高齢者の利便性が著しく低下する場合は、一部施設の継続も検討する。		【メリット】 ・譲渡することにより施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・高齢者の利便性が低下する可能性がある。

(2) 広域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性
健康福祉センター	機能を維持し、長寿命化を図る。ただし、相乗効果が見込まれる場合は、他の施設で提供しているサービスの複合化を検討する。